

主の洗礼の説教

金 大烈 神父 2009年1月11日(日)

《主の洗礼の祝日》

おはようございます。

洗礼って洗う儀式のことでしょう？一昔前までは川に行って体全体を水につけて洗ったわけです。今は額に3回水を注いで「父と子と聖霊の御名によってあなたに洗礼を授けます。」と簡単になっています。それでは洗礼って何を洗うものですか？簡単にいうと罪ですね。今まで自分が犯して来たあらゆる罪です。正しく言うと去った日の罪深い日々が赦される儀式です。では罪って何でしょう？昔ファリサイ派の人々や律法学者達は律法に逆らうこと、掟に違反することを罪と言いました。しかし、今日洗礼を受けたイエス様によって単純化されました。どのように？愛によって。掟や律法は結局 "愛" という言葉にまとめられます。掟や律法の精神は "愛" です。ということは罪とは愛をしないこと、愛することを拒むことを意味します。皆様、愛していますか？私達が罪を犯しているかどうかの基準は簡単です。私は愛しているか、憎んでいるかです。私達が御聖体を頂けるかどうか、赦しの部屋を訪れる必要があるかどうかすぐにわかります。相手を非難する資格があるかどうかすぐにわかります。たぶん、皆様洗礼を受けた日、ものすごく感動的な体験ができたと思います。幼児洗礼の方は覚えていないでしょうが、ほとんどの方が大人になってからの洗礼でしょう。その時、今までのこと全部捨てて死んで、新しく生まれたという気持ちで洗礼を受けられたと思います。

洗礼を受けた途端に体の物理的な変化を体験することはありません。洗礼の恵みは何ですか？それは今まで歩んできた否定的な道を避けて明るさを求めて前に進む、決心が与えられる恵みです。皆様は悪いことと良いことを見たらすぐに心が動きますね。「あれは悪いことだ。」「あれは良いことだ。」と。失敗やまちがいをしたらすぐ反省できます。それも洗礼の恵みのひとつだと思います。私達は毎年主の洗礼の祝日を祝っています。毎年あらためて、洗礼を受けた日の心を思い出し、鈍くなっているところがあれば、もう1回考え直し、また新たな生き方を求めようとするのです。そのためにこの祝日があるわけです。戻りましょう。鈍く、冷たくなったところがあればやり直しましょう。洗礼を受けて、少なくとも正しい道を歩もうとする強い心が許されたのを感謝しましょう。そして感謝だけに止まらずに、決心したことが果たせるように祈り求め頑張りましょう。これが洗礼の祝日の意味ではないかと思います。洗礼を受けた日の気持ち、心を思い出して下さい。このミサをもう1回洗礼を受けた気持で捧げましょう。そしたら皆様が今まで感じられなかった何かが起きるかもしれません。

次は別の話をします。景気が悪くなっていますね。世界的に。戦争も重なっているいろんな人が犠牲になっています。予想がつかない1年を迎えています。その中で悩んでいる人、苦しんでいる人は限られています。病気の人、力のない人、弱い立場の人々です。逆にお金を持っている者はもっとお金を儲ける年になると思います。

昨日、今日の説教の準備で黙想している時に、私がよく見るテレビ番組である放送局(韓国の地上波の放送局)の時事プログラム「それが知りたい」というのを視聴しました。その扱ったテーマは「お金」でした。今年の景気の展望から始め、金に関する色々な面を触りました。その中に人間は本能的にお金に対してどのような傾向を持っているか、そしてお金と人間の幸福の函数関係は何であるかを探るのが主要な内容でした。

その中で二つの面を取り上げていました。ひとつは大企業に就職し一生懸命働いていたがある時、宝くじに命を懸けると決めた人の話。その人は7年間部屋にこもり十数台のコンピューターを置いて先週、先々週・・・の統計を取り合計して「私は必ず1等を取り何十億円を儲けます。」と言っていました。もう一人も大会社で働いていたが、辞めて株に全てをかけようと、今まで貯めたお金を全部

株に投資し、2億位儲けた人が紹介されました。その人に「これからも株を続けますか？」と聞いたら「はい、これからも儲けられる日まで儲けます。」と答えていました。又ある小学校で子供たちにお父さんお母さんがよく話すことは何ですか？と質問したら、「お金は大事にしてよ」と言う子供が67%いました。このように、番組はお金に全ての意味をおく人々の姿を見せてくれました。

二つ目はある83歳のおじいさんの話から始めました。そのおじいさんは50年前に病気になり救急車で病院に運ばれ治療してもらったがお金がなくて治療費が払えず病院を逃げ出したそうです。そして50年たってから30倍のお金と手紙を入れた封筒をその病院のポストに入れたようです。その手紙には「50年前、治療してもらったのにお金が払えず逃げました。50年間毎日悩みました。やっと今日恩返しができます。お赦してください。」と書いてあったそうです。病院ではその人を探しましたが見つからなかったそうです。もう1人。24歳の時、夫を亡くして4人の子供を育てたおばあさんの話でした。その時代女性が1人で4人の子供を育てるのは大変なことだったんでしょう。それで少しずついろんな人からお金を借りたわけです。それが気になって毎月国からもらう少ししかないお金を貯めて、借りたものを返すために全国を回り、その人達に謝りながら返したそうです。「79歳で全部返しました。」と言ったその人の手にはロザリオがありました。それを見て私は、やはり美しい生き方をする人がこの世の中に沢山いるんだな—と思いました。彼女の仕事は食堂の掃除や皿洗い・・・でした。その人が死ぬまでにやらなければならないと思ったことは借りた人に返すことでした。この番組を見て私が感じたのは美しくお金を使うのか、きたない形でお金を使うのかによって私達は全然変わるということです。何が大事か、何のために生きているのか、お金って命より大事なのか。お金のために失った大事な絆はないのか？このミサを通して考えたらいいんじゃないかと思います。赤ちゃんは生れた時は100%手を握っていますよね。そして、人は亡くなる時は手を開いて死にます。どんなに頑張った人も空手で帰ります。忘れないで下さい。これも意味があります。そのために何より考えなければならないことは命です。命のために生きましょう。金でなく。金のために人を傷ついたり傷つけられたり、愚かなことは避けましょう。

ありがとうございました。